神奈川新聞　2013年（平成25年）7月20日（土）

就労先開拓に高評価

平塚進和学園　海外の福祉関係者視察

障害者の雇用促進などを研究、研修するため来日中のマレーシア、パキスタン、コロンビア、レソトなど9カ国の福祉関係者12人が19日、知的障害者ら約500人が利用している平塚市の社会福祉法人「進和学園」（万田）と、その営業窓口会社「研進」（上吉沢）を訪れた。ホンダから受注している自動車部品組み立てや、スーパー「しまむら」（長持）で行っている施設外就労などを視察。就労機会開拓の取り組みを高く評価していた。

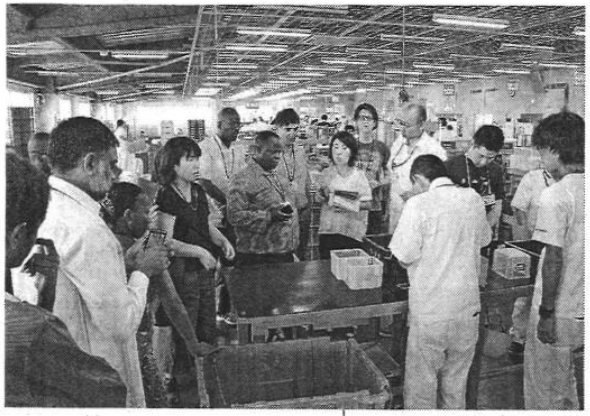
（熊谷　和夫）

12人は、「障害者の雇用促進とディーセントワーク（人間らしい仕事）の実現」をテーマにした国際協力機構（JICA）のプログラムで6月19日に来日。8月初旬まで各地を視察している。この日は、全国的にも高い工賃を実現している進和学園の取り組みを視察した。

同学園は、在宅就業支援団体の研進が営業を担当し、自動車部品の組み立て加工をはじめ、業務の確保、開拓にあたっているのが特徴。12人は研進の出縄貴史社長から説明を受けた後、同学園の施設「しんわルネッサンス」（上吉沢）の組み立てラインや、しまむら長持店で働く障害者の様子などを視察した。

20年前にも日本で研修経験があるマレーシア社会福祉局のカムシア・フセインさんは「マレーシアでは、子ども、シングルマザー、貧困者の福祉のモデルは北欧諸国。高齢者、障害者は日本です」と説明。ただ日本の障害者福祉の現状については「福祉施設が自立できるシステムが必要ではないか」と指摘した。一方で、「学園や研進の職員の能力の高さに驚いた。研進の取り組みは新しいアプローチで参考にしたい」と話した。

レソト社会開発省シニアインストラクターのタンキソ・タレンさんは学園の活動について「チャンスを得て能力を発揮している。能力を発揮する場が必要なことを強く感じた」と語っていた。



ホンダの自動車部品を組み立てる障害者の作業を視察する9カ国の福祉関係者＝しんわルネッサンス